

牧師室から（2020. 6. 14）

海老名教会もいよいよ公の礼拝の再開である。喜びと不安の交錯する中での再出発である。教会はエクレスシア（呼び集められたものの集会）であるので、人が集まることに規制をかけたり慎重になるというのは、教会の在り方自体に関わる、いわばブレーキをかけることである。これから暫くは教会の礼拝や活動に新たな形を模索していくことになるだろう。しかし、たとえそれがコロナ禍以前のようにならないとしても、またどのような形になるにせよ、教会は存続し散らされることはないと信じている。むしろこの試練を通して、教会の新しい姿に望みをかけたいと思っている。（鈴木淳一）